

岡崎信用金庫資料館は、旧岡崎銀行本店として大正6年（西暦1917年）に建てられた建物で、昭和57年より市民ギャラリー、貨幣展示室として地域の文化発展に貢献しています。

名建築家鈴木楨次氏が設計した、現存する数少ない建物として、登録有形文化財に選ばれています。当時の重厚感と近代化を感じさせる赤レンガと御影石をふんだんに使った建物です。

本年、竣工100周年を迎えるにあたり、記念展覧会の初回を愛知県立芸術大学のご協力をいただき開催いたします。本館百年の歴史と若手芸術家による未来を感じていただけるものと思います。



岡崎信用金庫資料館

10:00-17:00 (入館は16:30まで) 月曜・祝日休館

| 入館料無料 |

〒444-0038 岡崎市伝馬通1丁目58番地

TEL0564(24)2367 http://www.okashin.co.jp/

名鉄名古屋本線東岡崎駅下車 徒歩約10分

名鉄バス籠田公園前下車 徒歩約2分



石谷 雅詩

いしがい まさし

河本 真里

かわもと まり

日本画二人展

2017年4月4日(火)～5月31日(水)

10:00-17:00 (入館は16:30まで) 月曜・祝日休館
(入館料無料)

岡崎信用金庫資料館

石谷 雅詩 いしがい まさし

河本 真里 かわもと まり

通いなれた東岡崎駅の終電あと。

多くの人々がホームに残した気配と、
その人々と戯れ終え、静かに息を休める名鉄の赤い電車。
もう朝まで遮断機が下りることのない踏切の中で、
夜が明けると戻ってくるであろう賑やかな様子を想いつかべながら
見つめた光景です。



「休息」再興第99回院展出品作品

- 1981年 大阪府に生まれ、5歳から愛知県岡崎市に移る。
2004年 愛知県立芸術大学 日本画専攻 卒業
2005年 再興第90回院展 入選
2006年 愛知県立芸術大学 大学院 日本画専攻 卒業
2007年 第62回春の院展 入選
愛知県立芸術大学 研修科 卒業
2008年 愛知県立芸術大学 非常勤講師 勤務 (～11年)
2010年 個展《大丸 心斎橋店》
2011年 個展《鶴軒藝術・台湾》 (以後12・14・16年 開催)
風雅の会 《大丸松坂屋・名古屋/心斎橋/上野》 (以後毎年出品)
2013年 日本画一例展—《松坂屋 名古屋/上野》 (以後15年 開催)
2014年 個展《ギャラリーエスパス・名古屋/京都》 (以後15年 開催)
若鶴会 日本画展 《三越 日本橋・名古屋》 (以後毎年出品)
2016年 岡崎の美術100年展 《岡崎市美術博物館》
個展《松坂屋 名古屋本店》
2017年 個展《東武百貨店 池袋店》

現在 日本美術院 院友

絵にしたくなる場所とはいつどこで巡り合うかわかりません。

夏の夕暮れの中、古く崩れそうな小屋を包み込むように咲くノウゼンカズラ。
本当は別の場所を取材しに出かけたのですが、
偶然見つけたその光景を絵にしたいと思いました。
特別な景色というわけではないかもしれません、
素直に感動した気持ちを大切に日々制作しています。



「いつかの夏」再興第99回院展出品作品

- 1990年 愛知県長久手市に生まれる
2010年 愛知県立芸術大学美術学部美術科 日本画専攻入學
2013年 第68回春の院展 初入選 (以後'14、「15、「16入選)
再興第98回院展 初入選 (以後'14、「15、「16入選)
卒業制作 桑原賞受賞
2014年 愛知県立芸術大学 美術研究科 博士前期課程 日本画領域 修了
修了模写「觀音正寺所蔵 千手觀音像」大学買上げ
再興第101回院展にて奨励賞・第22回天心記念茨城賞受賞

現在 日本美術院 院友

ご挨拶

この度、岡崎市の岡崎信用金庫資料館にて石谷雅詩さんと河本真里さんの「日本画二人展」が開催される運びとなりました。お二人は愛知芸術大学をご卒業後、日本美術院展への出品を重ね続け、受賞歴もある力のある作家達です。

会期は2017年の4月4日から5月31日までの約2か月という長期間の展示となります。

院展への出品作品である大作150号をはじめ、10号から50号までの小品と合わせ6点ずつ出品される予定です。

石谷雅詩さんは生き物を描く際には、その心情や本質を引き出し描きたいと仰っていました。風景でもその中にある人々が残した「氣」をも描けたらとのことです。

河本真里さんは普段目立たぬ身近な物をモチーフに対して、心のフィルターで滲過し昇華させた部分を大切に制作されていると仰っていました。

それぞれに見たままの向こう側にある物をみつめておられますが、違なった個性をぶつけることでその差異を際立たせる面白い企画です。

なにとぞご支援たまわれますと幸いです。

愛知県立芸術大学 学長 松村 公嗣